



RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND

立教英国学院

— 立教大学系属校 創立 1972年 —

No.2

July 2025

同窓生からのメッセージ



立教英国学院 同窓生の活躍

岡野 透 校長

2025年4月に本パンフレットの第1号を発刊したところ、各所から大きな反響を頂戴しました。そのため、第2号を早々に発刊することに致しました。立教英国学院は1972年の開校以来、3,000名以上の卒業生を輩出してきました。本校は、日本の教育を大切にしながらも英国の良さを取り入れた日英融合の学びの場として、多くの生徒を育て

きました。本校の同窓生は、世界各国、日本で多様な分野において活躍しています。ビジネス、学術、芸術など、彼らの活躍は多岐にわたり、学校で培った国際的な経験や語学力を活かして、社会に貢献しています。

立教英国学院が育んだ誇るべき卒業生たちの姿を、ぜひご覧ください。

立教英国学院レポート 新男子寮の建設が始まりました

本校では、グローバルに活躍できる人材の育成を目指し、学びと生活の両面から環境整備を進めています。その一環として、新しい男子寮の建設工事がスタートしました。

新寮は2階建て・2棟構成で、各棟30名、計60名の入居が可能です。基本は4人部屋で、入寮者同士の交流を促すコモンルームも設けられます。

さらに、太陽光パネル・ヒートポンプ・床暖房など、環境にも配慮した設計となっており、完成は2026年4月を予定しています。



林(黒澤) 昌子 (3期生)

(以下、敬称略)

London School of Economics にて数理経済学・計量経済学学士、同修士、経済学博士

大学院を修了後、ペンシルバニア大学高等教育研究所研究員、明治学院大学教授等を経て、在学生の6割が55か国以上からのミッドキャリア行政官という政策研究大学院大学の理事・副学長・教授(博士(経済学))をしています。職業能力開発政策の在り方や評価についての分析、ワークライフバランスについての研究を行っています。



左から本人、同期の萩原氏(本号に掲載)
青盛氏、江島氏(共に No.1 に掲載)
(撮影: 文藝春秋・榎本麻美)



memories

なぜかよく想い出すのはダイニングルームでの風景です。テーブルマスターになると、10人分を超えるプレートにフォークとスプーンを箸のように動かして、おかずを超絶スピードで配分しなければならず、最初は指が攣っていました。

長期休暇中は Horsham や Rudgwick で先輩や後輩と一緒にホームステイをさせて頂いたことも素敵な思い出です。

message

AI 技術が進化していく中でこれまで以上に重要になるのは、文化や習慣、価値観の違う人々を理解すること、そして現状を認識し、何が問題なのかを見極め、改善するために人の心を動かし、行動を促していく力だと思います。そのような力を培う上で、色々な国で暮らした友人たちと寮で四六時中生活を共にする経験は非常に役立ちます。学校を取り巻く英国の人々の考え方や生活に触れることもできますね。皆さんの生活そのものが、皆さんの人間力を高めています！どうか一日一日を大切に過ごして下さい。

萩原(大久保) 恵里 (3期生)

横浜市立大学医学部、同大学院修了。神奈川県立循環器呼吸器病センター勤務。内科一般・免疫学そして呼吸器感染症専門医としての経験を積み現在は神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科部長および横浜市立大学医学部客員教授を務める。COVID-19 パンデミックでは、神奈川県の重点医療機関の責任医として、対応の陣頭指揮を執った。



memories

中学3年3学期から高校卒業までお世話になりました。クラスは一学年一つで、女子は全員とても仲がよく、バカ騒ぎして遊んだり、バンドを組んだり、文化祭頑張ったり、高3のときには理系女子2人部屋で受験勉強に切磋琢磨したり、今思い出すのは楽しいことばかりです。当時は不満も多くそれなりのストレスは抱えていたはずなのですが、私はオランダ組でイギリス組の次に近い方でしたが、いろんな国から学期ごとに飛行機で集まってきてまた寮生活が再開するのも楽しいことでした。

message

在学当時は、日本から訪れるお客様達が朝の礼拝で述べる挨拶に必ずといっていいほど出る「素晴らしい自然に囲まれた、素晴らしい環境」というフレーズが、子どもにはちっとも響いてきませんでした。

今となっては、確かに！と納得しています。一生の友達ができる環境でもあります。在学中にわからなくても、いろいろとストレスがあっても、大丈夫です。あとになって一生の宝物がたくさんできた、とわかるはずです。

殿村 真一 (4期生)

東京大学経済学部卒業、Stanford Graduate School of Business 修了 (MBA)、Capgemini Asia Pacific Deputy CEO

35万人のプロフェッショナルを抱える欧州発では最大手のコンサル会社 Capgemini Group の経営会議メンバーとしてグローバル、アジア、日本の大手企業のデジタルトランスフォーメーション推進に従事しています。顧客企業の変革支援がミッションですが、社内的にはアジアパシフィックの事業拡大や不採算部門のテコ入れなどにも取り組んでいます。シンガポールを拠点に東京、ムンバイ、NY、パリ、ロンドンなどに出かけて様々な方々にお目にかかることが醍醐味です。



上から4人目
(左側)がご本人



memories

小学校6年生から中学3年生まで、東先生ご夫妻をはじめ素晴らしい先生方、素晴らしい友人たちと巡り会えた最高の4年間でした。現在も最も親しい友人の多くは立教で一緒に過ごしたメンバーで未だに「立教離れ」していません。夜中に寄宿舎からいなくなって大搜索されてご迷惑をおかけしたり、遠くの村まで悪ガキ仲間でごっそり買い出しに行ったり、乗馬、サッカー、テニス、野球それぞれに夢中になったり、刺激的なダンスパーティがあったり。とても凝縮された生活でした。

message

立教英国学院で過ごした日々は私にも親しい仲間にも未だに人生において大きな存在です。在学中は、英語があまり上達しない、サッカーが上手くならない、勉強してもあまりパツとしない等々なんか嫌だなと感じていた自分も思い出します。でも今振り返ると、立教の寄宿舎生活にはスポーツでも地域コミュニティ交流でも勉強でも普通では経験出来ない様々な機会がありました。皆さんが没頭出来るテーマを探しあてて、様々な分野でグローバルに羽ばたかれますよう！

小坂 文乃（8期生）

立教大学社会学部観光学科卒業 大学卒業後、Waterford Wedgwood Japan 勤務。その後、日比谷松本楼に入社。現在、株式会社日比谷松本楼 代表取締役社長
社業の他、梅屋庄吉の曾孫として日中及び地域の親善活動にも携わる。長崎県壱岐市観光大使・長崎県文化観光事業アドバイザー・長野県伊那市
繋ぐふるさと大使・立教大学校友会副会長・東京国立博物館評議員・上海市名誉市民・千代田区観光協会理事・日本食生活文化財団理事他
2018 年農林水産大臣賞 2021 年外務大臣賞を受賞 著書「革命をプロデュースした日本人」(講談社)



演劇部メンバーと(右端がご本人)



左端がご本人、立教学院福田理事長、
英国学院岡野校長、奥野先生と

memories

立教英国学院には小学6年3学期から高校卒業までお世話になりました。全く英語が話せないのに渡英し、6年間の寮生活を経験。現在、私の度胸のベースになっているのはあの立教での日々であることは間違いありません。

演劇部での『マクベス』や『真夏の夜の夢』の公演。寒い中、近くの村まで歌いながら歩いたキャロリング。ダイニングBでの自習時間。粉末のオレンジジュースとビスケットのティータイム。ペピ&マチルダの笑顔とスパニッシュライス。目を閉じると走馬灯のごとくあの日々が浮かんできます。

message

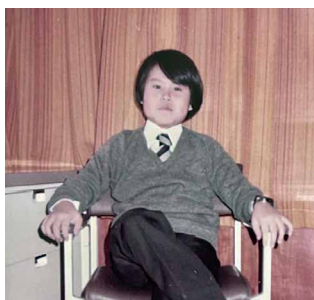
2024年立教大学創立150周年記念行事で久しぶりに英国学院を訪問しました。果てしなく続く緑の丘に佇む学び舎は以前と大きく変わってはいませんでした。若い皆さんには少々退屈かもしれませんが、社会人になって振り返ると、そこは天国のような環境です。是非、せっかくなので英国の気候や花、文化などに触れる機会を楽しんでください。私はハーフタームや夏休みなどの休みには家に帰らず、英国人家庭にホームステイをしていました。食事やモノ、時間などに対する価値観が日本人と異なることを学びました。今、日本と英国の2つの価値観や考え方を自分の中に見つけることが出来るのは、とても豊かなことだと感じています。

伊藤 卓也（8期生）

慶應義塾大学経済学部卒業（1989年卒）、米国コロンビア大学経営大学院修士（1996年卒）

清水建設株式会社 常務執行役員 営業総本部営業担当 グローバル事業本部副本部長

大学卒業後、みずほフィナンシャルグループに入社。米国大学院留学を経て、企画部門、国際部門を中心にニューヨーク、シンガポールへの駐在を経て、みずほ銀行国際部門長を務める。4年前清水建設に移籍し、海外M&A責任者として複数の企業買収をクローズ。米国アトランタ駐在北美事業部門長を経て現在は営業総本部担当常務としてインバウンドの国内投資プロジェクトや海外テックベンチャーへの投資、インキュベーション業務に従事。



スイスの自宅で立教英国の制服を着る



左からご本人、宇宿夫人、奥野先生(米国留学中に訪問)



中央がご本人(30年ぶりに訪問)

memories

小学校5年生で初めて親元を離れての寮生活でしたが、幸い3期に兄の裕司（カンペー）がいたので、先輩方にはかわいがってもらいました。それまでスイスのインターでしか勉強していなかったので授業に全くついていけず、居残りテストで教室に最後まで残り、ロッジまで一人で帰る日々。

ペピが作るレバーの煮込みと合わせて、厳しい試練の日々でした。それでも、当時のクラスメートたち、サッカー、ビートルズや Simon & Garfunkel の演奏、Mrs. 宇宿の優しさ等、良い思い出ばかりが残っています。

message

私が立教英国学院を通じて身につけたものの一つは、「多様な視点と価値観を持つことの大切さ」でした。

日本、親元を離れ、多様なバックグラウンドを持つ級友たちと学ぶ中で、日本という国を外から見つめ、日本に暮らす同世代に思いを馳せる。また英国や海外の人々の生活や価値観に触れることで、これまでの自分にはなかった視野が広がっていく。こうした経験を10代のうちに海外で積むことができたことは、私にとってその後の人生においてもかけがえのない財産となっています。立教英国学院の皆さん、ぜひ自信を持って様々な出会いや経験を楽しんでください！

黒岩 亜純（9期生）

慶応義塾大学・法学部政治学科卒業、TBSテレビ 報道局・局長補佐（TBS報道番組担当）長年「筑紫哲也 NEWS23」ディレクター&編集長を担当。政治部記者、「報道特集」ディレクター、「夢の扉+」チーフプロデューサーなどを担当し、大型の特別番組も多数プロデュース。2016年よりモスクワ支局長。「サンデーモーニング」「news23」のプロデューサーを経て現職。市民が映像制作のスキルを身に付け発信する必要性を感じ、自主的に'98年「ドキュメンタリー制作会アズ」を立ち上げ、映像・メディアなどの分野に人材を輩出。



左から2番目がご本人



モスクワ支局長時代



同期と（左から2番目がご本人）



45期のお嬢様と岡野校長

memories

英国の現地校での生活が7年となった中学2年の2学期に、立教英国学院に入ったものの、高校受験を前に、残り1年で、8年間分の勉強を頭に叩き込まなければならなかった。ただ、小学生レベルの漢字の読み書きも満足にできず、前途多難。そんなある日、担任の岡野先生（現校長先生）から、「君は、ずば抜けて頭がいい訳ではないが、努力する能力がある」と言われた。一瞬、戸惑う表現だったが、40年以上経った今でも、自分の支えとなっている。

message

仕事柄、人物ドキュメンタリー番組を担当したことがあった。自分の「夢の扉」を開いた人たち。その中には、卓越した能力を兼ね備えた人たちもいれば、ごく普通の人たちもいる。5年間で200人を超える取材。そこから見てきたのは、成功者たちの、共通した法則。それは、何があっても「決してあきらめない」こと。夢を実現するには、数多くの壁が見えるかもしれない。しかし夢の扉を開くためには「決してあきらめないで！」。

岩崎 惇（27期生）

立教大学経済学部経営学科卒、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科修了

大学卒業後、某大手警備会社入社。その後大学院修了後、三星産業（株）に勤務。現在、三星産業株式会社 取締役。

当社は建築防水施工会社のため、ゼネコン下にて再開発事業や複合ビルなどを中心とした防水工事がメイン事業。そのような中、主に大手ゼネコンや事業主に対する法人営業を主軸に行っている。



中央、キャップを被っているのがご本人

memories

ある年の1学期終了後、ボーイスカウトキャンプに参加したことが印象に残っております。当時はまだ色々な制約があった中での寮生活でした。

ただこのキャンプ期間中だけは、炭酸飲料やお菓子を自由に飲食したり、夏の明るい夜が暗くなるまでBBQ

をするなど、解放感に満たされた楽しい時間でした。本当の“同じ釜の飯を食う”間柄であった友達や先生方と一緒にだったため、より一層そう思えたのかもしれません。

message

私は6年間立教で過ごしましたが、最初は馴染むことができませんでした。しかし、いつの日からか、就寝直前まで笑い話をしたり、自然豊かな中でスポーツをしたり、時には先生に叱られるなど、共に生活する友達と日々の苦楽を共にすることで、充実した寮生活を過ごすことができました。そしてその友達は今でも大切な存在となっています。

在校生の皆さんも友達を大切に、そして様々なことに挑戦してみてください。



ご支援のお願い 本校の教育活動や環境整備は、多くの皆さまのご支援によって支えられています。志ある方は「ブルーベル募金」へのご寄付をお願いいたします。皆さまの温かいご支援が、未来を担う生徒たちの成長を支えます。



[英国] RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND

Guildford Road, Rudgwick, West Sussex RH12 3BE U.K.

Tel:+44-(0)1403-822107 E-mail:eikoku@rikkyo.co.uk

[日本] 立教英国学院東京事務所

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教学院内

Tel / Fax: (03)3985-2785 E-mail:tokyo@rikkyo.co.uk